

職員による自己評価

A 環境・体制整備

- ・勉強机等の配置変更や壁紙・マットの新調により刺激要因を減らしている
- ・新たにクールダウン室を作成し個別支援にも活用している

B 業務改善

- ・自己評価の結果をHPで公表
- ・月1回の内部研修を実施、コンプライアンスや障害知識向上を図っている
- ・エリア内で職員の交換研修を行い職員のスキルアップ

C 適切な支援の提供

- ・発達段階・学年に応じた個別及び小グループ活動の実施
- ・学習進捗状況に応じて新たな教材の作成
- ・ABAをベースとして支援を実施

D 関係機関や保護者との連携

- ・こども部会等の外部研修や地域の障害児支援委員会への参加をして関係機関との関係性の構築に努めている
- ・個別面談や日々のFBにより保護者様からの情報収集・共有を行い、共通対応を図る

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために、保護者会など大勢が集まる機会を減らしているため、個別面談の回数を増やして実施
- ・日々のFBや連絡帳での伝達、支援内容を記載した指導記録の配布を行う事で事業所での取り組みの共通認識を図る

E 非常対応

- ・様々な災害（地震・火災・津波・不審者）などを想定した防災訓練を年2回の決められた訓練以外にも毎月実施。

保護者による評価

A 環境面

- ① はい 23 どちらともいえない 2 いいえ 0 無 0
- ② はい 22 どちらともいえない 3 いいえ 0 無 0
- ③ はい 20 どちらともいえない 5 いいえ 0 無 0

B 児童への支援内容

- ④ はい 25 どちらともいえない 0 いいえ 0 無 0
- ⑤ はい 25 どちらともいえない 0 いいえ 0 無 0
- ⑥ はい 4 どちらともいえない 18 いいえ 3 無 0

C 事業所からの情報発信

- ⑦ はい 25 どちらともいえない 0 いいえ 0 無 0
- ⑧ はい 25 どちらともいえない 0 いいえ 0 無 0
- ⑨ はい 22 どちらともいえない 3 いいえ 0 無 0
- ⑩ はい 4 どちらともいえない 14 いいえ 7 無 0
- ⑪ はい 23 どちらともいえない 2 いいえ 0 無 0
- ⑫ はい 24 どちらともいえない 1 いいえ 0 無 0
- ⑬ はい 22 どちらともいえない 3 いいえ 0 無 0
- ⑭ はい 24 どちらともいえない 1 いいえ 0 無 0

D 非常対応

- ⑮ はい 22 どちらともいえない 3 いいえ 0 無 0
- ⑯ はい 22 どちらともいえない 3 いいえ 0 無 0
- ⑰ はい 22 どちらともいえない 3 いいえ 0 無 0
- ⑱ はい 25 どちらともいえない 0 いいえ 0 無 0

事業所内での分析

【共通点】

- ・児童の獲得スキルに応じた小集団に分けての活動実施、教材の提供により成功体験を積んで肯定感を高めている
- ・曜日ごとにターゲットを設定している為、目標に向かった継続的な支援が行えている
- ・活動内容が分かりやすいよう改善し、利用意欲につながっている

【相違点】

- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から保護者会等の開催を控えており新規職員の紹介の場が送迎時になっている為、定期的なお知らせで共有を図る
- ・職員のスキルに差が見られる為、研修や支援の振り返りを通して各職員のスキルアップに努める

分析・検討してみたて…

事業所の強み

ABA の考え方をベースとした支援を取り入れている。

日々の FB のみでなく活動報告写真や利用時の様子を指導記録に詳細を記載・配布したりブログで事業所の取り組みや知識を発信したりする事で振り返り・共有のツールとして活用している。

変化に対する抵抗感を持たずに必要に応じて支援方法の変更や新たな教材づくりに努めている

事業所の改善点

新たな教材や支援の改善方法について職員全員が提案・発信できるよう知識や経験を積み重ねていくためにも外部研修に積極的に参加していく。

事業所ごとに支援方法が異なっていたが共通のビジョンを持つためエリアごとにミーティングや研修を通して統一を図っている

事業所の改善への取り組み

- ・ 児発管からの提案のみでなく職員各自が支援に必要なものを考案できるよう Why の視点を持って日々の支援に携わっていく
- ・ エリア内での職員交換研修を通して単独ではなく多様な視点を持ってより良い支援に繋げていく
- ・ 職員の知識・技術向上や適切な事業所運営を行っていくために毎月の内部研修でスキルアップを図っている
- ・ 事業所のめざす支援をより言語化し共通認識を持っていく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

お子様の学年が上がるにつれてより細分化したグループ分けや関わり方の適宜見直しの必要性を改めて感じられたので繰り返しの支援も必要ですが柔軟に対応を変化していける事業所づくりを行っていく重要性を再認識出来ました。

今回の貴重なご意見も踏まえて、ハートリンク本郷台がご利用者様からより信頼され必要とされる事業所となれるように、今後の事業所の在り方等をスタッフと共に考えていきます。